

2021 年を振り返る

いまから 50 年前の 1971 年、信州大をなんとか卒業して、大阪に移り住んだ。大阪市立大の大学院をめざして浪人生活をはじめた。宮本憲一先生のもとで研究したかったためだ。それから半世紀。4 年前に名古屋から大阪に転居して、毎日のように大阪市大の図書館に通っている。人生は不思議なものだ。昨年はコロナ禍の緊急事態宣言により、図書館が長期にわたり休館となり、大阪市役所「市民情報プラザ」などに通った。歩く距離が減り、足腰が弱ってしまった。今年秋には、店頭で「転倒」してしまった。私にとってのコロナ禍だ。まだ調子はよくないが、なんとか元気にやっている。

今年前半は、とりわけコロナ禍の恐怖を覚えた。コロナだけでなく、大病になっても入院できない事態になりかねない。加齢がすすむなかで、コロナ死者が全国一の大阪で不安な毎日を過ごした。大阪の維新政治に身をもって腹が立った。

コロナ禍は念願の京都大での講義を直撃した。じつは『現代社会資本論』連続講義を 4 月 26 日に担当する予定であった。その数日前、京都にも緊急事態宣言が発出され、対面講義は全面中止に。その頃、わが家のパソコンは旧式であり、ズームで講義できる環境ではなかった。京大「パンダ」何とかに挑戦したが、結局は休講にしてもらった。猛暑の 7 月 19 日に京大に出向いて講義した。ウェブ共用で対面の受講者は少なかったが、はじめて京大で講義できて嬉しかった。写真はお世話になった諸富徹教授の研究室から撮った時計台など。忘れられない京大での講義であった。



名古屋で続けてきた「高年大学」での講義は、残念ながら 2 年連続で休講となった。一方、八尾の美しい庭が見える会場で開催してきた「やまだ塾」は、12 月で 11 回となった。最初に私から問題を投げかけ、多彩な参加者と議論を交わしてきた。いまでは貴重な「居場所」となっている。



京都西院で毎月開かれる「背広ゼミ」に参加し、何回か報告して宮本先生や参加者から多くの示唆や刺激をもらっている。8 月に『宮本憲一先生卒寿記念 未来への航跡』が刊行されたことは、今年のビッグニュースだ。国家経済研究会で 12 月 25 日に「後年度負担と地元負担膨張の構図」と題し報告したが、今後も調査研究を続けていきたい。



写真は大阪湾の人工島「夢洲」である。「新聞うずみ火」スタッフと視察したとき、咲洲展望台から撮ったものだ。ここを会場に 2025 年大阪・関西万博が予定されている。IR カジノ誘致も現実味を帯びつつある。市民団体の仲間とともに、来年も夢洲での万博、IR カジノに声をあげていきたい。

(2021 年 12 月 31 日)